

平成27年度施政方針



平成27年度の予算が3月定例市議会で成立しました。後藤市長は、本年度の予算説明を通じ、市政運営の基本的な方針並びにその主要施策などについて所信の一端を述べ、市民の皆さんの市政に対する深いご理解とご協力をお願いしました。その趣旨は次のとおりです。

一昨年、市民の皆様の代表として、市政運営の舵取りを担わせていただくことになり、丸2年を迎えようとしています。この間、市勢の更なる発展と活性化、住民福祉の向上に全力を傾けてまいりましたが、引き続き市民の皆様とともに、知恵を結集することにより、喜びを共有できる暮らしの安定向上に努めてまいれる所存であります。

さて、国においては、本年2月3日、経済の脆弱な部分に絞りを絞り、かつスピード感をもつて対応を行うことで、経済の好循環を確かなものとするともに、地方にアベノミクスの成果を広く行き渡らせることを基本的考え方として取りまとめられた

「地方への好循環拡大に向けた緊急経済対策」に基づく平成26年度補正予算が成立したところであります。国の方針は、この補正予算を含めた各施策を、迅速かつ着実に実行し、経済の好循環を確かなものにするとしています。同時に、人口減少に歯止めをかけ、東京圏への過度な人口集中は正対策として、地方創生を成し遂げるため、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、①東京一極集中の是正、②若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現、③地域の特性に即した地域課題の解決についても取り組んでいるところです。

国としては、国民一人ひとりが夢や希望を持ち、潤いある心豊かな生活を安心して営むことができる地域社会の形成、個性豊かで多様な人材の確保及び地域における魅力ある多様な就業の機会を創出することなど、一体的な推進を図ることとしています。

地方創生とは、地方で「ひと」をつくり、その「ひと」が「しごと」をつくり、「まち」をつくるという流れを確かなものにしていくことです。

従来の政策の検証が行われ、人口減少の克服と地方創生を確実に実現するため

に、「まちひと・しごと創生」政策5原則として、自立性・将来性・地域性・直接性・結果重視を掲げています。

特に地域性については、客観的データに基づき実状分析や将来予測を行い、地方版総合戦略を策定するとともに、同戦略に沿った施策を実施できる枠組みを整備することになります。今後、有識者を含めた会議等を設置し、論議をしていきたいと考えています。

ご案内のとおり、本年は、築上郡内の九町村が合併して豊前市が誕生、市制施行され60周年という記念すべき年で、人間でいえば還暦の大きな節目となり、この間、多くの先人の皆様を守り育てていただいた豊前の里を、さらに発展させるために、議会や市民の皆様とともに協働し頑張っていく覚悟であります。

まず、5月に市制施行60周年の記念行事として、これまで市政発展にご尽力いただいた方々に感謝の意を表すために、式典を計画しております。特に、お父上が本市出身で、日系の方で初めて米国の州知事に就任されたジョージ・良・アリヨシ元ハワ州知事をお迎えして、記念講演をしていただく予定にしております。



ジョージ・良一・アリヨシ氏

今年、89歳とられるアリヨシ元州知事ですが、「ぜひ、豊前市の子供たちに話しかけたい」との強いご希望も頂いております。「おかげさまで」という自分史が日米両国語で出版されており、皆様の心にとどように響き、伝わるのか楽しみにしております。

次に、本年度の主要な取組について、申し上げます。

医療・介護・福祉分野でのきめ細かい行政サービス

市長就任以来、掲げてまいりました「生涯現役社会づくり」は、新年度から健康長寿のための施策として補助事業を活用し「在宅歯科訪問事業」を実施する予定です。在宅の高齢者を対象とする事業ですが、ここから市民全体に広がるように努めます。「口腔ケア」により、歯を強く、口中を清潔に保つことで食道や胃腸、気管や肺を病原菌から守り、さらに血液を汚さないことで疾病予防、健康増進につながることを期待します。そのために豊前築上歯科医師会・九州歯科大学と連携しながら、情報の整理・発信を市役所から行っていくと考えています。

そして、生涯現役社会の実現に対応するため、本年4月より機構改革を予定しております。具体的には、介護と健康の部署を併せ持つ健康長寿推進課を新設して、更なる施策の展開を模索してまいります。



健康診断

さらに、小学生から中学生までの通院について、一部負担金をいただきながら、医療費支援の拡充を新年度より実施いたします。安心して子育てできる環境整備を、保育料に続き、医療費についてもさらに進めてまいります。併せて病気を早期発見、早期治療するために健康マイレージ事業を継続し、ガン検診、歯科検診などの受診率向上を目指します。また、新年度より、胃がん検診のオプションとして、胃がんリスク検査の補助を行う予定です。内容については、ヘリコクターピロリ菌の感染の有無を調べ、胃がんリスクを判定し、定期的に検査を受けていただくことで、早期発見につなげていきたいと考えています。

高齢者のみなさんには、自宅にこもらず、地域社会で交流してもらえらるるようこれまで以上の事業に加え、歌唱を取り入れた健康法なども充実していければと考えています。介護予防事業については、地域包括

ケアシステムの構築を柱として、地域で安心して暮らせる仕組みづくりを目指し、市民の方を対象に、認知症予防や地域での支え合いの意義を説明することにより、理解を深めていただけるように努めます。



介護予防事業

教育の振興

国の教育改革のなかでは、道徳を教科化するのことに向けて、教材を読むことを中心にした従来の型から脱却し、問題解決的な学習や体験的な学習の手法を取り入れ、児童生徒が特定の見方に偏らず、多面的に考えられるようになることを目指しています。豊前市といえども、国の動向を注視しながら、社会規範や問題解決能力を身に付けさせ、人生を他者とともにより良く生きる人格を形成することを目指して、取り組んでまいります。

新年度より、小学校において、放課後支援事業として、子供たちの課題解消や学習習慣の定着のため、個別指導や補充学習を行い、学力向上を目指します。さらに、障害のあるお子さんやその保護者に対して、早期から専門家による保育園等への巡回相談・教育相談会の開催・学校見学等を実施し、きめ細やかな対応ができるよう支援体制の構築を図ります。

また、新年度は、市制施行60周年記念事業として、被災地に小・中学生を派遣して、個々の目や耳で被災地の現状を体験してもらい、防災意識の高揚・次代のまちづくりに役立てていただきたいと考えています。そして、児童生徒の読書ばなれに歯止めをかけるため、読書リーダー養成講座を継続実施し、各学校と市立図書館との連携を図ることで読書好きの子供たちの育成に努めます。



読書リーダー養成講座

産業の振興

環境整備につきましては、角田小学校・三毛門小学校・角田中学校・千束中学校において、体育館の天井等の改修工事を行い、国が進める非構造部材の耐震対策と長寿命化を図り、防災対策を行ってまいります。

文化芸術につきましましては、求善提山の史跡整備において、引き続き用地の公有化を推進し、貴重な文化財の保護・保存に努め、埋蔵文化財センターを活用しながら、市内外に情報発信していきたいと考えています。

いよいよ、我が豊前市にも、念願のインターネットが供用開始となりました。本市にとつて、福岡都市圏が1時間余、さらに別府までが40分余、宮崎までが3時間半余となり、この広域交流圏にどのように対応していくかが、大きな課題となります。

そのためには、今まで本市にお越しいただけなかった地域のみなさんにも、魅力ある豊前海を見て、海の幸を味わい、豊前海を学んでいただく「六次産業化・水産振興施設」の建設が急務であり、新年度内の完成を目指すとともに、地域おこし協力隊事業を活用して、施設の運営企画・情報発信等を行い、臨海部の活性化に努めてまいります。

さらに、八屋漁港先の海で実証実験をおこなっており、石炭灰を固めたハイブリッドによる海の環境浄化事業については、新たな技術で海の環境を浄化し、生産力を高めていくことが検証されれば、海に暮らす皆さんの生活と漁場環境を向上させる等、更なる可能性を追求してまいります。

一方、山間部では昨年11月、森林セラピー基地がグランドオープンいたしました。本市では、これまで都市部の方を受け入れるため、お客様の心と体のリフレッシュのお手伝いをする「森の案内人」、地元産の新鮮な食材を使った「森林セラピー弁当の製作」、森林空間とともにリラククス効果を高める様々な「体験プログラム」等に取り組みでまいりました。特に森林セラピーは、都市環境で受けるストレスを癒してくれることが科学的に実証されていますので、農村民泊での交流、セラピーガイドのみならず、皆さんが語る森の環境とウォーキングなどを楽しんでいただき、これらを上手く組み合わせ、お客様の緊張や疲労を和らげ、心身ともに健康になるよう、活気を取り戻すためのお手伝いをしていきたいと考えています。



森林セラピー基地

商業につきましては、国の緊急経済対策を活用したプレミアム商品券の発行支援

やふるさと名物商品事業などを充実させ、取組を拡大しながら、消費喚起を行い、商業の活性化を図ってまいります。

人口減少に歯止めをかける対策

今までの「増やす」という目標に加え「これ以上減らさない維持」「来訪客など交流人口の増」に努めます。また、電子メールで情報発信を行う「在外市民」の方の増加を図ります。本市の四季折々の情報や伝統行事を送信することにより、豊前市を応援支援していただけるのではないかと考えています。

さらに、U・J・Iターンの住民だけでなく、海外からのお客さまを含め長期に安価で滞在できる「ロングステイのまち」を目指し、観光展開の拠点となる組織の設立やこれまで以上に空き家バンク事業などに取り組んでまいります。

また、県と連携し、県内で働きながら一定期間居住し、地域の魅力や住みやすさを体験していただき、広く県外に発信することで全国から多くの定住者を呼び込み、移住へと結びつけるトライアルワーキングステイ事業についても、取り組んでまいります。

安全・安心なまちづくりについては、新年度において、地域防災計画の見直しを予定しております。津波対策・災害対策基本法改正に伴う見直しや防災マップの充実を行い、市民の皆様の生命と財産を守るため、災害対策の更なる強化を図ります。今後、地震や津波を想定した防災訓練を継続して実施し、いつでも災害が起こりえるという認識のもと、市民の方々の防災意識の高揚に努めてまいります。



防災訓練の様子

環境については、市民一人ひとりの環境意識を育てながら、日常的なゴミの減量化やリサイクルの推進等、環境への負荷の少ない資源循環型社会の構築に積極的に取り組んでまいります。

市バス事業においては、低床バスの導入を予定しています。今後の更新については、低床化を目指し、小型車両については、電動補助ステップを装備し、子供や高齢者の生活の手段であることに配慮するとともに、乗降客の増加につなげたいと考えています。また、乗り込み調査・市民アンケート・デマンドバス等の検討を行い、地域公共交通網形成計画を策定し、地域公共交通の見直しの論議を行う予定にしております。

本市は、発足当時の人口からみれば1万人以上減少しましたが、様々な人口を増やす・維持する対策を講じながら、活力あるまちづくりに挑んでいきたいと思っております。

以上、市政運営に関する私の所信並びに主要施策の概要について申し上げますが、今年度は、穏やかでありながら芯の強い羊の年であり、豊前市も羊にあやかり、しつかりとした足取りでこの一年を進んでまいりますので、議員並びに市民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

